

和 都 第 310 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

大和町長 浅 野



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別添のとおりです。

担当：都市建設課 高橋、堀籠
電話：022-345-7502
Fax：022-345-2860

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮城県 大和町

- ・道路の中期計画策定にあたり、高規格幹線道路や高規格道路のネットワークなど、地域にとって真に必要な道路を確実に位置付けし、必要な財源を確保すること。
- ・住民の安全・安心を確保するため、厳しい自然環境の克服や災害防止、急速に老朽化する道路施設の更新・維持・管理に向けて取り組みを一層強化すること。
- ・急速に進む少子高齢化に対応するため、地域内外の交流・連携を支える道路整備に対し強力な支援を行うとともに、歩行空間のバリアフリー化、交通安全対策、雪寒対策など、地域の特色や事情に応じた道路整備を図ること。

今後の道路行政についての意見・提案

②地域の現状と抱える課題

宮城県 大和町

○現状

本県の中央に位置する仙台北部中核工業団地（大和町）にトヨタ自動車東北が小型自動車エンジン製造工場の立地を決定し、隣接する大和流通・工業団地（大和町）にハイブリット車専用電池メーカーであるパナソニックEVエナジー株式会社が進出を決定、第二仙台北部中核工業団地（大衡村）にセントラル自動車株式会社、トヨタ紡織株式会社が立地を決定し、また、大和リサーチパーク（大和町）には、半導体製造装置メーカーである東京エレクトロン株式会社と電気絶縁樹脂等製造会社であるソマール株式会社が立地を決定しており、それぞれ2010年生産開始に向け着々と準備が進められている。

このように、自動車関連及び高度電子機器関連の大企業が集中的に進出を決定し、更に関連企業の進出が予定されており、自動車及び高度電子機器産業の拠点化が急速に進展している。

○課題

- ・自動車関連及び高度電子機器産業の拠点化に伴い、数千人規模の新たな通勤車両や物資輸送に関係する車両が大幅に増えることが想定され、国・県・市町村道の整備が急務となっている。特に、骨格となる国道4号・457号の整備が急がれている。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２地域の目指すべき将来像

宮城県 大和町

本町は、産学官が連携し県土の振興発展を目指す仙台北部中核テクノポリス圏域にあって、仙台北部中核工業団地を核として流通団地、住宅団地開発を進め職住近接のまちづくり（仙台北部中核都市建設促進）を進めてきた。

また、本県の「みやぎ自動車関連産業集積形成基本計画」及び「みやぎ高度電子機器関連産業集積形成基本計画」において産業の集積区域に位置付けられ「富県宮城」実現のため産業集積機能が強く求められている。

昨年から本年にかけて仙台北部中核工業団地と隣接する大衡村の第二仙台北部中核工業団地及び周辺の流通・工業団地にトヨタ自動車関連に企業進出決定が相次ぎ、更に本町南部の大和リサーチパークには高度電子機器産業を中心とした企業の進出が決定し、2010年操業を目指し準備が進められている。

このことにより、永年まちづくりの柱としてきた仙台北部中核都市の建設が現実の形となっており、今後においても自動車関連や高度電子機器の製造業を中心とした産業の集積が高まるものと予想され、住機能を含め更なるこれらに対応したまちづくり（みやぎの中核都市建設）を推進していく必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

宮城県 大和町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地域活力の向上 ・ 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化 ・ 少子・高齢社会に対応した子育て環境・バリアフリー社会の形成	・ 国道 4 号線仙台以北の 4 車線拡幅整備 ・ 国道 457 号線の整備促進 ・ 仙台北部道路の早期完成 ・ 県道大衡仙台線他県道整備事業促進 ・ 市町村道（生活道路）の整備促進 ・ 交通安全対策特別交付金制度の充実 ・ 歩行空間のバリアフリー化（歩道の段差解消）	・ 慢性的な交通渋滞の解消 ・ 活力ある経済社会の形成 ・ 快適な生活環境の形成 ・ 交通安全施設の整備による交通安全の確保 ・ 子どもと高齢者に優しい生活環境の形成（夜間・冬期間の転倒防止）	